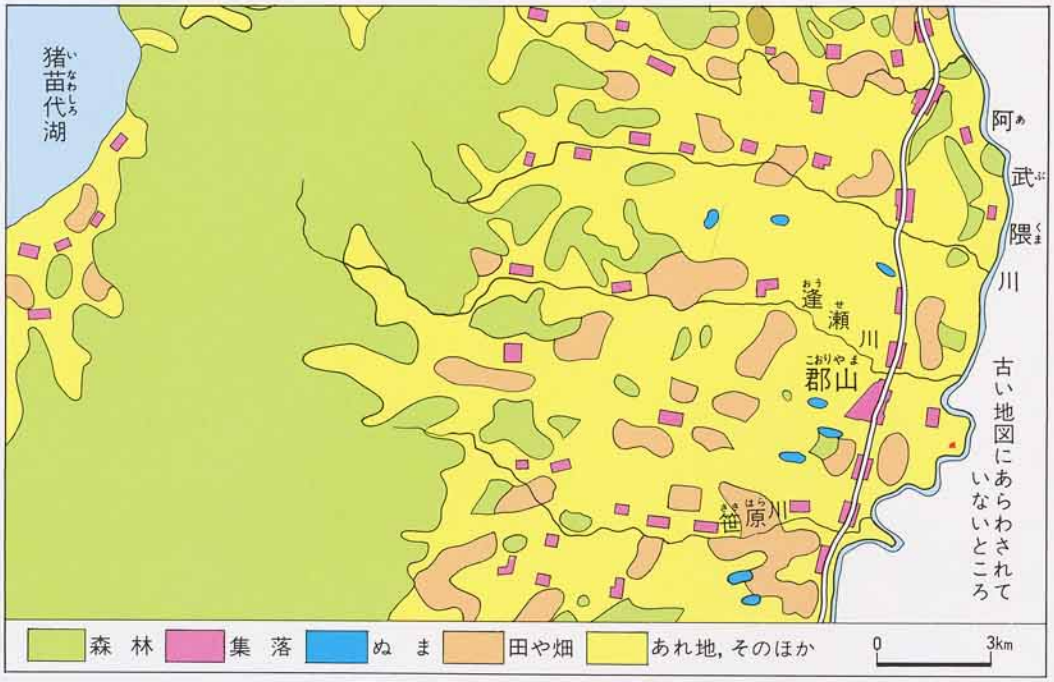
3．きょう土を開く

(1) 用水路をつくる



明治のはじめのころの郡山ふきんの土地利用図

1873年（明治6年）ころの郡山の東の方（現在の郡山駅のあたり）は，人口がやく5,000人の大きな宿場町でした。ところが，町の西のほうには，見わたすかぎり安積原野が広がっていました。そのころ安積原野（現在の開成山のあたり）は，あれ地が広がり住む人もほとんどなく，きつねやたぬきが住んでいるようなところでした。

古くから米つくりは行われていましたが，水田につかわれる水は，小さなため池やせきの水をつかうしかありませんでした。そのため，つねに水不足に苦しみ，日照りがつづくといねはすぐにかれてしまいました。